



教育者。松山城下(現、松山市)出身。松山藩士・山路一審の長男として生まれる。15歳にして勝山学校(現、松山市立番町小学校)教師に採用され、その後、大阪に出て小学校教師を務めた。しかし、自らの学問を修めたいと考え、明治8(1875)年、大阪英語学校(現、京都大学)に入学して優秀な成績により飛び級での進学を認められたが、山路家では学費を支えられず志半ばで帰郷した。その後、愛媛県立北予変則中学校(現、県立松山東高等学校)の数学教師として採用されたものの、やはり学問への思いを断ち切れず、給与と親戚からの借金で学費を工面して東京師範学校(現、筑波大学)に入学、明治17(1884)年、首席で卒業した。

東京師範学校卒業後、文部省御用掛となり、明治19(1886)年に29歳で高知県高知師範学校(現、高知大学)校長に就任。明治22(1889)年、香川県学務課長に転出し、香川県尋常師範学校(現、香川大学)初代校長も兼ねて同校建設にあたった。その後、兵庫県尋常師範学校(現、神戸大学)校長、愛知県尋常師範学校(現、愛知教育大学)校長、滋賀県師範学校(現、滋賀大学)校長などを歴任。大正2(1913)年、請われて郷里の愛媛県師範学校(現、愛媛大学)校長に転じ、大正12(1923)年に退官するまで10年間務めた。

一遊は、知識を生み出す人間養成を目指して徳育第一主義を掲げ、特に将来教育者となる生徒の人格形成を重視し、自らは校長として全校生徒に日記を書かせて全て目を通し個別指導にあたった。

略歴

安政5(1858)年10月17日	松山城下の南堀端に生まれる。
元治元(1864)年	藩校・明教館に入学して漢学を修める。
明治3(1870)年	明教館に洋典科(外国語科)が設置され、最年少で同科生徒に選出
明治5(1872)年	勝山学校教師となる。
明治7(1874)年	大阪で小学校教員となる。
明治8(1875)年3月	大阪英語学校入学(翌年、学資が続かず退学して帰郷)
明治10(1877)年8月28日	愛媛県立北予変則中学校数学教師となる。
明治12(1879)年9月	東京師範学校入学
明治17(1884)年4月	東京師範学校卒業。文部省御用掛となる。
明治22(1889)年10月2日	香川県尋常師範学校校長就任
明治25(1892)年4月1日	兵庫県尋常師範学校校長就任
明治31(1898)年3月23日	愛知県尋常師範学校校長就任
明治35(1902)年12月24日	滋賀県師範学校校長就任
大正2(1913)年3月31日	愛媛県師範学校校長就任
昭和7(1932)年8月19日	75歳で永眠

〈関連図書〉

- ・『恩師山路一遊先生』 鶴濱同窓会 1941年
- ・山路一遊『天放集 山路一遊先生遺稿』 青葉図書 1976年
- ・唐澤富太郎編『図説 教育人物事典 下巻』 ぎょうせい 1984年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第8巻 船田ミサヲ 八木繁一 山路一遊』 愛媛県教育会 1984年
- ・愛媛県百科大事典編集委員会『愛媛県百科大事典』 愛媛新聞社 1985年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・『まつやま 人・彩時記』 松山市文化協会 2006年

〈主な収蔵資料〉…(P198, 21~22)

〈ゆかりのある場所〉…(P272, 34~35)